

## 第6回 大館市バリアフリーまちづくり推進協議会 議事録

1. 日時：令和3年11月12日（金）午前10時00分～午前11時15分

2. 場所：大館市 大館市立中央公民館 第一研修室・第二研修室

3. 内容：大館市バリアフリー基本構想について

4. 議事内容

(1) 第5回協議会の指摘事項への対応について

事務局より資料「1.第5回協議会の指摘事項への対応について」を説明

(2) 公共施設のバリアフリー状況とアンケート・ヒアリングの調査結果

事務局より資料「2.公共施設のバリアフリー状況とアンケート・ヒアリングの調査結果」を説明

(3) 重点整備地区について

事務局より資料「3.重点整備地区について」を説明

(4) 特定事業・その他事業について

事務局より資料「4.特定事業・その他事業について」を説明

(5) 今後のスケジュールについて

事務局より資料「5.今後のスケジュールについて」を説明

(以下、質疑応答)

- K 委員 調査結果から課題を抽出しまとめたページが無いが、今後、この調査結果から課題を見つけて整備を行うことについてどのように進めていくのか。
- 事務局 資料3、4にて提示している。
- T 委員 P15の障害者アンケートの結果について、70歳以上が6割以上で非常に高いように見える。  
データに偏りがあるのではないか。
- 事務局 身体障害者のみならず、精神障害者等、障害者手帳を持っている方から無作為に抽出している。今回のアンケート回答者数は大館市の全障害者手帳を持っている方の約15%となる。  
身体障害者手帳を持っている方の母数が多く、かつ身体障害者手帳を持っている方は高齢者が多いため、平均的には高齢者が多くなる。
- K 委員 障害者手帳を持っている方の全数とその年齢層等のデータも提示すること。
- T 委員 障害者アンケートの結果を見ると、比内、田代地区の方のうち半数程度は大館駅周辺地区や大館市役所周辺地区を整備したほうが良いと回答されているように見受けられる。田代、比内地区の方は疑問を持つと考えられるため、この結果については慎重に説明、表現してほしい。
- 事務局 持ち帰り検討する。
- S 委員 今回の検討では、障害者アンケートが大きな比重を占めていると考えられる。アンケートの取り方が重要であり、聞き方や対象者についてお聞きしたい。  
また、「よく利用する施設」ではなく、「利用したい施設」という聞き方をすると、

結果が変わるのではないか。現状で、重点生活関連施設に図書館や文化会館が入っていないが、考え方によっては、障害者の方もこういった施設を利用したいということもあるのではないか。

事務局

アンケートでは「よく利用する施設」はどこか、という聞き方としている。

「利用したい施設」はどこか、といった聞き方ではアンケートを行っていない。

K 委員

重点整備地区・モデル地区の抽出の考え方について、事業の実現性が高いという点のみではなく「大館にとってやった方が良い」という観点での抽出も考えられるのではないか。現時点で事業は動いていないが、バリアフリー整備を行わなければならない施設もあると考えられる。

K 委員

重点生活関連施設等に入れた部分と入れられなかった部分について、どのような協議を行ったかという説明が現在の資料内に記載されていない。

事務局

マスタープランにおいて「誰もが移動しやすく、活動しやすいまち」という観点があるため、それも含めて検討する。

H 委員

重点整備地区の中で重点生活関連施設に選定されたものに民間の施設がある。行政のほうで支援は可能であるか。具体的に、どこにどれくらいの費用を投入するか、というものを示してほしい。

事務局

民間施設について、特別特定建築物には補助があるが、規模の小さな施設には補助制度が無い。庁内で企業版バリアフリー補助事業の制度設定を進めている。それを利用して頂きたいと考えている。

K 委員

次回の協議会にてデータも含めて提示すること。

S 委員

ヒアリングは、実際に当事者の方の話を聞くことも必要ではないか。アンケートは障害者の方だと文字が読めない、書けない事もある。直接障害者の方にヒアリングし、当事者の方の話を聞けば、現在挙げられていない施設が出てくる可能性がある。

事務局

今回の計画を作って終わりではなく、今後、状況の変化で柔軟に計画を変えていく予定である。

K 委員

アンケート対象者として無作為に抽出された 800 人は、いつも動いている方、ウォーキングをしている方など活動的な人ではなく、あまりまちを歩かない人である可能性がある。その場合は公園などの活動的なスペースが選ばれていない可能性がある。活動的な人に聞いた場合は「必要な施設」について異なる回答が得られる可能性がある。本当は整備が必要だが今回のアンケートで押さえられていないと考えられる部分をどうフォローするかを事務局で検討頂きたい。

O 委員

低床バス等の整備がその他事業として挙げられているが、大型低床バス等が走れない地域についてはどのように考えているか。

T 委員

大型のノンステップバスは、田代地区の出口の踏切などで引っ掛かり走行できないことや、雪で走行不能になる箇所があるといった問題がある。中型のノンステップバスが発売された際に購入している。新車は、国から補助が 1/3 出たとしても 600 万程度の負担になるため、中古で購入し使用している。今後、徐々にワンステップ・ノンステップに変更しようと考えている。

- S 委員 重点生活関連経路案は、問題点として挙げられている「通行経路の案内標識を設置してほしい」ということと結びついているか。
- 事務局 「通行経路の案内標識を設置してほしい」というのは全般的なことを示しているため、重点生活関連経路とは結び付いていない。
- K 委員 例えば、妊産婦・子育て中の方のみが挙げている施設は重点整備施設になりにくいモデルというのは地区という括りではなく、子育て中の方に必要なものなど、役割から考える必要もあるのではないかと。
- S 委員 「モデル地区」が大館らしい計画を作成するうえで重要なものであると考えられる。可能であれば、大館市役所内の関係する部署とも連携し、重要な施設などについて意見交換頂きたい。
- S 委員 PDCA を回しながら「大館らしさ」を出す計画を作成頂きたい。
- K 委員 次回の協議会では、今回の協議会の対応についても精査を行う必要がある。単純な基本構想の承認ではないと考えている。スケジュールについても再考願いたい。

## 5. 会議風景

